

特集「偕行社と陸修会の 合同の現状」

新しい酒は・・・

今後の偕行社の名称について

偕行社専務理事

奥村 快也 陸自70

現在、偕行社と陸修会（陸上自衛隊幹部退官者の会）との合同協議が進行中です。

偕行社側の代表を専務理事の私、奥村が務めているので、その途中経過について会員の皆様に報告しておいたほうが良いという運用企画会議のメンバーの申し出がありました。

私自身、会員の意見をどのように反映すべきか、何かと迷うところが多いのも事実ですので、ここに再度紙面で説明して、皆さんのご意見を賜りたいと思っています。

ただ、偕行社としては新体制準備委員会の時から陸修会との合同を視野に入れて、数年に渡り定款等の変更を実施してきており、監督官庁の承認も受けて、陸修会との合同を実施するものであり一部の会員の指摘するような単なる思い付きでの合同

ではないこともここに断っておきます。

陸修会の発会式が正式に4月に行われて、陸修会の理事会組織が発足した時から、陸修会との合同協議が正式に行われるようになり、爾来4回の合同協議が実施されています。この協議内容はかなり機微なものになるため、偕行社・陸修会それぞれの委員会・理事会止まりとしているため、それぞれの一般の会員には即座に周知出来ない恨みはありますが、双方の代表が真剣にかつ長時間にわたって議論していることはご理解頂きたいと思えます。

陸軍関係者主体の偕行社を陸自出身者が引き継ぐかどうか、かつて激論が交わされたと同っています。当時は偕行社の財産を全て靖國神社へ献納して偕行社は解散すべきであるという方々と、偕行社を永続させるべきであるという方々が議論して、自衛隊の幹部を偕行社の会員とするという事が承認されたのは平成13年という事でありませぬ。そういう意味では偕行社は陸上自衛隊との結びつきの中で隊友会等の自衛隊支援諸団体に比べ極めて後発の組織であり、平成13年来の議論を現在再度行っているとも言えるのが出来るのかもしれない。

れません。

偕行社と陸修会の合同協議の議論の内容は多岐に亘っているため、ここで全てを紹介することは出来ませんが、その焦点の一つが合同後の組織の名称問題であります。

その為、今年の偕行社総会で出席した会員にアンケートを実施し、様々な意見が寄せられました。約半数の会員は偕行社の名称を今後とも維持して欲しいという事で、後の半数は名称を柔軟に考えてもいいのではないかとこの事でありました。また、合同後どのような活動を行なうか、その性格はどのようなものになるのか分からない等の意見も寄せられました。数次にわたって偕行誌に、新しい偕行社の方向性やそれに伴う定款の変更等を記載しています。是非、それを読んでいただければと思います。

ただし、皆さんにお知らせする努力も十分ではなかったという反省に立って再度、紙面でその焦点である名称問題について合同協議やアンケートを踏まえて説明したいと思えます。

一概には言えないものの、偕行社の名称を残してほしいという人達は従前会員、家族会員、二世会員に多

く見られ、従前会員、家族会員等の方々の意見は先輩や父親などが守つて来た偕行社の名称を守つて貰いたいという意見が多数でありました。

他方柔軟に名称を考えても良いのではないかとこの人達は比較的若い会員に多く見られた。その中で前理事長の富澤氏は表題にした「新しい酒は新しい革袋に」という意見であり、組織が新しく船出するのであるからその組織にふさわしい名前前で出発するのが自然ではないかということでした。

我々偕行社の運営企画会議の多くのメンバーも前理事長の富澤氏と意見を同じくするものです。

その理由は確かに偕行社という名称は帝国陸軍以来の由緒ある名称ですが、新しく陸上自衛隊の幹部退官者全体の組織と合同して新しい偕行社となるという事を鮮明にするためには、偕行社と陸修会の名称を一緒にした「偕行と陸修を組み合わせた名称（最終的な名称は引き続き検討中）」にして、更に部外にアピールすることが、今後の偕行社の発展のために好ましいのではないかというのが運営企画会議の概ねの結論であります。

だいて偕行社の今後の発展に共に手を携えて行きたいと願っています。

新しい名称にすることにより、従来の偕行社を支援する人々や組織に加えて更に陸上自衛隊を支援する組織であるという事を鮮明にすれば、陸上自衛隊と密接な関係を持つ企業や陸上自衛隊を応援したいという賛助会員を増やすことが出来ると考えています。つまり、名称を変更することは偕行社の新たな発展に繋がるものであると信じるものであります。

偕行社という名称は確かに伝統を継承する名称であります。従って我々も少なくとも「偕行」という名称は守り続けていくことが大事であると思っておりますが、更に発展するために変化に対応する名前にすることも大切であると認識しております。

ダーウィンの進化論には「生き残った生物は強いもの」ではなく「環境の変化に柔軟に対応した種が生き残ってきたのである」という言葉があります。今後とも偕行社が発展していくためには時代の変化に柔軟に対応して行くことが大切であると思っております。繰り返しになりますが、仕方なく名称を変えるのではなく将来の発展のため名称変えることをポジティブにとらえようということとです。皆様にはこれを御理解いた